

第十三章 五箇瀬川水系

一 流域

(一) 地形 五箇瀬川水系ノ流域ハ宮崎縣ノ北部ニ位シ東
 臼杵西臼杵兩郡ノ北部ヲ占メ西方熊本縣阿蘇郡ニ跨リ其
 ノ形狀略梯形ニ近ク上底延長七里半下底一四里何レモ東
 西ニ向ヒ兩底ノ距離凡ソ七里ニシテ面積七六方里アリ
 流域ノ北部ニハ九州山系ノ主脈東西ニ連亘シ西方ニ屹
 立スル阿蘇山ノ東方ニ於テ西南ニ折レ五箇瀬川最上流地
 方ニ至リ尙本流中流以下ノ南岸ニハ日向山脈起リテ南走
 シタレハ本流域ハ至ル所山岳相連リ平地ハ河口延岡附近
 ニ少許アルニ過キス

流域ノ西端ヲナスモノハ阿蘇外輪山ニシテ其ノ頂ハ高
 サ三、〇〇〇尺内外弧狀ニ彎曲シテ本川ト白川トノ流域ヲ
 分チ外側斜面ハ丸味ヲ帶ヒタル丘陵ト其ノ間ヲ刻シテ流
 レタル溪流錯綜シ特有ノ地貌ヲナシ延ヒテ馬見原町下流
 附近五箇瀬川左岸ノ地ニ及ヘリ。九州山系ノ主軸ニアリ
 テハ夏木山傾山本谷山祖母山等流域ノ北部ニ連リテ北川
 及大野川トノ流域ヲ分チ更ニ阿蘇山ノ麓ヲ廻リテ宮崎熊

ツアット雖他ニハ支脈ヲナスモノ少ク從ツテ南方ヨリ流
 入スル支流ハ何レモ極メテ小ナルモノニ過キス。東方延
 岡附近ニ於テハ河ノ南北共低夷ナル山岳連亘ス

耳川、小丸川、一瀬川流域等九州山系及日向山脈ノ連亘ス
 ル地方ニ於テハ山ハ何レモ急峻ニシテ急斜面ハ山頂ヨリ
 直ニ河川ニ迫レトモ五箇瀬川ニ於テハ河川附近一帶ニ阿
 蘇火山ノ噴出物流出シ溪谷ヲ埋メ遠ク河口ニ及ヘルヲ以
 テ他ノ九州山系及日向山脈ニ屬スル地方ニ比シ地貌ヲ異
 ニスルコト少ナカラス。本流上流、三ヶ所川、上野川、岩戸川
 及三田井ノ附近等ニ於テハ火山噴出物ハ溪谷ノ間ヲ埋メ
 タルヲ以テ急峻ナル山岳ノ間ニ比較的傾斜少ケレト波狀
 ノ起伏多キ一帯アリ殊ニ岩戸川及三田井附近ノモノ廣大
 ナリ三田井ノ上流部及日影川附近及三田井ヨリ下流部等
 ニ於テハ火山噴出物ハ古生層ノ山ニ接シ連ナリ山岳臺地
 ヲナセト何レモ起伏多ク地形錯雜セリ。是等ノ火山噴出
 物水ニ浸蝕サルルトキハ多ク柱狀節理アル熔岩ノ斷崖ヲ
 作ル如キ斷崖ハ五箇瀬川下流部ヲ除キ本流支流ヲ問
 ハス河岸到ル所ニ連續屹立シ高サ一〇〇尺餘ニ及ブモノ
 アリ又山ノ中腹ニ現ハルモノアリ特ニ三ヶ所川及其ノ
 合流點附近ノ本流ニ於テハ熔岩ノ斷崖ハ河ノ兩岸稍遠キ

本兩縣界ニ聳ユル黒峰トナリ南走シテ小川岳ヲ經向坂山
 ニ至レリ。流域ノ南部ニ於テハ向坂山ヨリ始リ白岩山、木
 浦山、大仁田山、赤土岸山、諸塚山等東西ニ連リ耳川トノ流域
 ヲ分チ之ヨリ東方次第ニ高サヲ減シ石峠、連日峠、烏帽子岳
 等トナリ伊鈴川トノ流域ヲ分テリ

流域ノ北部ニ於テハ主峰ハ何レモ急峻ニシテ高サ五、〇
 〇〇尺乃至六、〇〇〇尺アリ之ヨリ南方ニ數條ノ連嶺出テ
 テ支流ヲ分テリ即チ東方大崩山、鬼目山、榎峠等ハ祝子川水
 系トノ流域ヲ分チ釣鐘山、山師峠等ハ綱瀬川ト日影川トヲ
 分チ乙野山、猿嶽等ハ日影川ト岩戸川トヲ分チ道之越、燒山、
 寺山等ハ岩戸川ト上野川ヲ分テリ。是等多數ノ山岳ニ於
 テハ東方祝子川附近ノモノ何レモ五、〇〇〇尺ノ高サアリ
 勾配又急ナレトモ西方ニ至レハ次第ニ低クナリ上野川附
 近ニ於テハ三、〇〇〇尺ニ過キス地形又峻峻ノ度ヲ減ス

流域ノ南部ニ於テ真弓嶽以西ニ於テハ山容峻峻ニシテ
 主峰ハ何レモ四、〇〇〇尺乃至五、〇〇〇尺ノ高サヲ有スレ
 トモ之ヨリ以東ハ次第ニ低夷トナリ一、〇〇〇尺乃至二、五
 〇〇尺許トナレリ。流域ノ北部ニ於テハ多數ノ連嶺南走
 シ支流ヲ分チシモ南部ニ於テハ分水嶺比較的河川ニ近ク
 西方ニ搖山、祇園岳等出テ五箇瀬川本流ト三ヶ所川トヲ分

所ニ連ナリ是ヨリ河岸迄一帶ノ傾斜地連ルアリ特異ノ地
 形ヲナセリ。本流域ニハ別ニ花崗岩及石英斑岩ヨリ成ル
 山岳アリテ所々絶壁ヲナスモノアリ延岡町ノ北方ナル行
 鷹山綱瀬川沿岸ノ比叡山、矢筈岳等之ナリ。河口延岡附近
 ニ於テハ低夷ナル山岳相連リ河岸ニ平地展開ス

(二) 地質 五箇瀬川流域ハ大部分古生層ノ砂岩、粘板
 岩等ヨリ成レリ而シテ所々火山岩等アリ。即チ祖母山、古
 祖母山ヨリ宮崎、熊本縣界附近田原村河内附近ニ至ル迄一
 帶ノ極メテ急峻ナル山岳ハ一塊ノ石英斑岩ニ依リテ構成
 セラレ又同岩ノ一脈ハ五箇瀬川ノ北側ニアリテ之ニ平行
 シテ東西ニ延ヒ三田井岩戸ノ中間ヨリ比叡山、矢筈山、丹助
 山ヲ經行鷹山附近ニ及ヒ尙同岩ノ小塊ハ本流最上流部鞍
 岡ノ北方ヲ成セリ。又別ニ花崗岩ノ一塊ハ夏木山、新百姓
 山附近ヲ構成シ西方日影川中流部ニ及ヘリ

本流域ニ於テ特ニ著シキハ阿蘇火山ノ噴出物ニシテ流
 域ノ西方阿蘇山外部斜面ヲ成スノミナラス五箇瀬川及其
 ノ支流ノ溪谷ヲ埋メ遠ク河口附近ニ至レリ

本流域ノ東部即チ河口附近ノ山ハ中生層ノ砂岩及粘板
 岩ヨリ成レリ而シテ河口附近ノ平野ハ沖積層ヨリ成レリ
 (三) 林野狀態 五箇瀬川水系流域ハ林野狀態ヨリ大體ニ

於テ三ノ區域ニ分ツテ得ヘシ。其ノ一ハ流域ノ西端一帯即チ阿蘇外輪山ノ斜面ニシテ本流域内熊本縣ニ屬スル部分之ナリ此ノ附近ニ阿蘇火山特有ノ波狀ノ起伏多ク是等丘陵ノ頂部ハ概ネ草原又ハ潤葉樹ノ疎林トナリ其ノ溪谷等ヲ初メトシ所々ニ田畑並潤葉樹林及杉ノ植林點在セリ。第二ノ區域ハ流域ノ北部一帯即チ祖母山古祖母山ヨリ傾山附近ニ至ル一帯ニシテ國有林ニ屬シ潤葉樹林鬱蒼トシ森林狀態良好ナリ。第三ノ區域ハ上述ノ區域ヲ除ク流域一帯ニシテ田畑森林混在セリ。此ノ内ニ在リテ田ハ河畔溪谷ニ點在シ稍纏リテアルハ三ヶ所馬見原附近、岩戸川上野川沿岸及下流部兩岸ニシテ田ノ面積ハ全面積ノ約五分ニ當リ畑ハ各所ニ在リテ全面積ノ二割ニ近ク潤葉樹林最多ク二割五分ニ當リ混濬林針葉樹林各約一割五分無立木地三割許アリ其ノ他竹林各所ニ點在セリ右ノ内針葉樹林ノ過半ハ杉ノ植林ナリ。是等森林ハ伐採サルレトモ狀態概シテ良好ナリ

(四)氣象 河口暖ク上流ニ行クニ從ヒ寒ク年平均氣溫ハ延岡附近ニ於テハ一六度ヲ超ユレト草部附近ニ於テハ一三度餘ナリ。最高氣溫ハ河口附近ニテ三七度ヲ超ユルコトアレト上流部ニテハ三三度ニ達スルコト稀ナリ

ニ出テ熊本縣内ヲ流ルル部分ナリ。此ノ部分ノ上部馬見原町ノ下流ニ竿渡瀧アリ高サ八二尺ニシテ此ノ瀧ヨリ上ハ河幅一〇間内外河床河岸熔岩ヨリ成リ河況整一ニシテ勾配一〇分ノ一許ナリ。竿渡瀧ヨリ川走川合流點迄ノ間ハ河幅十餘間河床及河岸ニハ砂礫岩塊多ク基盤タル熔岩盤ハ所々現ハルルノミ而シテ三ヶ所川ヲ合セテヨリ流量増大スレト河況ニハ大差ナク勾配ハ合流點ノ上流七〇分ノ一許下流一一〇分ノ一許ナリ。此ノ附近ニ於テハ河川兩岸ノ狀況稍奇異ナルモノアリ即チ河川ノ兩岸高キ所ニ熔岩ノ斷崖屏風ノ如ク相連リ其ノ頂ハ附近ノ丘陵ニ接シ其ノ脚部ヨリハ急傾斜ノ一帯河岸ニ至リ茲ニ潤葉樹ノ自然林杉ノ植林等アリ又人家田畑點在ス。兩岸ニアル斷崖ノ距離ハ一町内外ヨリ五町餘ニ至リ三ヶ所川合流點附近最廣シ

第三ノ區間ハ川走川合流點ヨリ岩戸川合流點迄ノ間ニシテ河況甚ダ峻難ナリ。即チ河幅一〇間乃至二〇間兩岸山相迫リ其ノ邊ハ高サ六〇尺乃至一〇〇尺ノ斷崖ヲナシテ河岸ニ屹立シ河床ハ凡テ柱狀節理明ナル熔岩盤ヨリ成リ其ノ頂平ニ削磨セラレ河床極メテ平坦ナル所アリ或ハ多數ノ溝ノ如ク深ク刻セラレタル所アリ或ハ一部深整セ

最低氣溫ハ河口附近ニ於テハ零點下六度位ノコト多クレト上流部ニ於テハ零點下一一度以下ニ下ル。雨量ハ上流共大體一樣ニシテ年雨量二〇〇〇乃至二、四〇〇耗許ナレト降雨日數ハ下流部少ク一〇〇日餘ナルニ比シ上流部ニ於テハ二〇〇日ニ及フコトアリ

二河川ノ狀況

(一)概説 五箇瀬川本流ハ熊本宮崎兩縣界ナル向坂山ノ東方ニ源ヲ發シ九州山系並日向山脈ニ屬スル急峻ナル山岳ノ間ヲ北流シテ阿蘇山麓ニ出テ北東折シ其ノ上流部ト平行シ來レル支流三ヶ所川ヲ合セ更ニ川走川ヲ合セテヨリ東南折シ山岳丘陵錯綜セル所ヲ削リテ三田井附近ニ至リ支流岩戸川ヲ合セ更ニ下リテ日影ニ於テ日影川ヲ吞ミ綱瀬川ヲ合セ遂ニ延岡附近ニ於テ日向灘ニ注ク。本河川ハ古生層山岳ノ溪谷ヲ埋メタル阿蘇熔岩ヲ削刻シテ流下スルモノナレハ河況自ラ他河川ト趣ヲ異ニス

(二)河況

五箇瀬川本流 五箇瀬川本流ハ河況ヨリ之ヲ五ノ區間ニ區別スルヲ得。其ノ一ハ最上流部ニシテ河ハ急峻ナル山岳ノ間ヲ流レ未タ大ヲナサス其ノ二ハ馬見原町ヨリ川走川合流點熊本宮崎縣界附近迄ニシテ河ハ漸ク阿蘇山麓

ラレテ段流ヲナシ或ハ流路幅僅ニ二〇尺其ノ兩側ハ石柱ヲ並列セルカ如ク而モ深サ幾何ナルカヲ知ラス水色蒼然タル所アリ或ハ河中ニ龜甲狀ノ節理明ナル岩盤屈起スルアリ其ノ狀態千差萬別ナリ殊ニ窓ノ瀨ト稱スル所ニ至リテハ河床ノ岩盤中ノミ抜ケテ恰モ窓ヨリ水ヲ流スカ如シ。此ノ區間ニ於テハ斯ノ如ク河狀峻峻ナレハ從ツテ段流急湍多ク河川勾配六〇分ノ一乃至九〇分ノ一ナリ。第四ノ區間ハ岩戸川合流點ヨリ綱瀬川合流點ノ下ナル北方村藏田附近迄ニシテ河幅二〇間内外兩岸山相迫リ斷崖ハ高巢野附近其ノ他所々ニ懸レリ。河岸河床ハ基盤タル熔岩盤露出スル所ト砂礫轉石岩塊散在又ハ堆積スル所ト交錯シ河川ノ勾配ハ比較的緩ニシテ綱瀬川合流點ノ上ハ一五〇分ノ一乃至二〇〇分ノ一以下ハ更ニ緩ナリ。綱瀬川合流點ノ上ニ於テハ屈曲多キヲ以テ比較的水力利用ニ便ナリ

第五ノ區間ハ北方村藏田附近ヨリ河口迄ニシテ附近ノ地勢緩慢ナリ。河幅三〇間餘ヨリ廣キハ一〇〇間餘ニ及ヒ河床河岸土砂礫等ヨリ成リ勾配緩ニシテ洋々流下シ途中派川大瀬川分岐シ更ニ延岡町ニ於テ合流シ日向灘ニ朝

ス 三ヶ所川 五箇瀬川最上流部ノ支流ニシテ本流ト略平

行シテ流下ス。上流部ハ急峻ナル山ノ間ヲ流下シ河川未
タ小ナリ、三ヶ所村宇三ヶ所附近ヨリ合流點迄ノ間ハ其ノ
狀況本流馬見原ヨリ三ヶ所川合流點附近迄ト酷似ス。本
川ニモ、ウノコノ瀧ト稱スル高サ一〇尺ノ瀧アリ。河川
ノ勾配ハ瀧ノ上一七〇分ノ一瀧ノ下ハ五〇分ノ一乃至一
〇〇分ノ一許ナリ

岩戸川 九州山系ノ本谷山附近ニ源ヲ發シ南流シ三田
井附近ニ於テ本流ニ合スル一支流ナリ。本川ハ古生層ノ
山岳ノ間ヲ埋メタル阿蘇熔岩ヲ浸蝕シテ成レルモノニシ
テ兩岸ニ斷崖相連リ其ノ間隔一〇間乃至三〇間河床ハ岩
盤ヨリ成リ中央ノ一部幅二三間深サ一〇尺乃至三〇尺ニ
創刻サレテ流路ヲナス所ト河幅廣ク砂礫轉石ヲ存スル所
トアリ前者ニハ段流多ク後者ニハ瀧多ク勾配一〇〇分ノ
一許ナレト流域面積小ニシテ流量少シ

日影川 傾山附近ニ源ヲ發シ南流シ日影ニ於テ本流ニ
合スル本水系中ノ大支流ナリ。急峻ナル山岳相迫レル間
ヲ流下ス。上流岩戸村見立附近ヨリ同村仲組附近迄ハ河
幅四、五間ヨリ一〇間河床河岸砂岩粘板岩及花崗岩等ノ岩
盤ヨリ成リ砂礫轉石ヲ存シ岩塊多數河中ニ散在シ殊ニ川
野詰附近ニ於テハ直徑三、四十尺ノモノ河中ニ堆積セリ。

河川ノ勾配ハ一五分ノ一乃至六〇分ノ一ナリ

仲組ヨリ以下ニ於テハ河幅次第ニ大トナリ河岸等岩盤
ヨリ成ルコト上流ト異ナラサレト河中ノ岩塊減少シ勾配
亦緩トナリ岩戸村内ニ於テハ五〇分ノ一許ナレト七折村
ニ入りテハ一〇〇分ノ一許トナリ殊ニ大菅橋原以下ハ河
床砂礫ヨリ成リ多數ノ轉石アリ勾配緩ナリ

網瀬川 大崩山附近ノ二溪流合シテ網瀬川トナリ南流
シテ本流ニ合ス。兩岸山迫リ河幅一〇間内外河床河岸凡
テ古生層又ハ花崗岩等ヨリ成リ多ク露出シ轉石岩塊多數
散在シ勾配五〇分ノ一乃至一〇〇分ノ一ナリ

(三) 流量 流量變化ノ狀況ハ他河川ト大體同様ニシテ月
平均流量ノ最小ハ十二月一月又ハ二月ニ起リ最大ハ六月
七月又ハ八月ニ起ル。流量ハ一般ニ十二月一月少ク四月
五月ハ稍多ク五月下旬ヨリ六月中旬即チ梅雨前少ク梅雨
ニ入りテヨリ六、七、八月ハ概シテ多ク九月ヨリ十二月ニ至
ル間漸次減少ス。一年間ノ最大流量ハ六月ヨリ八月ノ間
ニ起リ最小流量ハ時トシテ梅雨前ニ起ルコトアレト大體
ニ於テ冬季ニ起ル

調査期間内流量實測ノ結果左ノ如シ

五箇瀬川水系流量表 (本會調査)

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流域一方里當流量									
					年次	最大	平水	低水	最小					
三〇	一	五箇瀬川	宮崎縣 四日市郡 田原村 河内 吐ノ瀧	二〇八六	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	七〇〇〇 九、七〇〇 一四、四〇〇 一六、四〇〇 一〇、七〇〇	七〇〇 六八七 六二一 五〇九 三〇〇	五〇 六一 五〇 四二 三三	三〇 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	一六五 一七五 一七五 一七五 一七五	一〇七 一〇七 一〇七 一〇七 一〇七	一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一
三一	一	五箇瀬川	宮崎縣 四日市郡 高千穂村 向山 水ヶ崎下	三〇五五	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	七〇〇 九、七〇〇 一四、四〇〇 一六、四〇〇 一〇、七〇〇	七〇〇 六八七 六二一 五〇九 三〇〇	五〇 六一 五〇 四二 三三	三〇 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	一六五 一七五 一七五 一七五 一七五	一〇七 一〇七 一〇七 一〇七 一〇七	一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一
三二	一	五箇瀬川	宮崎縣 四日市郡 七折村 中村 日影	四六二六	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	七〇〇 九、七〇〇 一四、四〇〇 一六、四〇〇 一〇、七〇〇	七〇〇 六八七 六二一 五〇九 三〇〇	五〇 六一 五〇 四二 三三	三〇 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	二〇五 三〇 三〇 三〇 三〇	一六五 一七五 一七五 一七五 一七五	一〇七 一〇七 一〇七 一〇七 一〇七	一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一

(參考)

同

(電氣事業者調査)

事業者	河川	測水所	面積	流域一方里當流量								
				年次	最大	平水	低水	最小				
延岡電氣所	鹿川	宮崎縣 東臼杵郡 北方村 下鹿 鹿川	三六	大正八年 大正九年	一、八〇〇 九、五〇〇	九〇 一〇八	六〇 七	三 三	三〇 三〇	三〇 三〇	一〇七 一〇七	八六 八六

事業者	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量					
				年次	最大	平均	低水	最大	平均	低水	最小		
延岡電氣所	鹿川	宮崎縣東臼杵郡北方村下鹿川	三二六	大正十年 大正十一年 平均	1,000	6	5	3	3	3	3	3	3

本水系上流部ニ於テハ濁水量甚タ豊富ニシテ下流ニ至ルニ從ヒ貧弱トナル。其ノ依ツテ來ル所多クアルヘキモ馬見原附近ニ湧水多キコト及上流部ニハ降雨日數著シク多キコト其ノ主ナルモノナルカ如シ

洪水ハ六月七月八月ノ間ニ多ク日影附近ニ於テ水位ノ上昇二〇尺ニ及フコトアリ然レトモ洪水汎濫ノ虞アルハ延岡町附近ニシテ下流部以外ノ地ハ山岳相連レルヲ以テ其ノ虞ナシ

三、水利及治水

(一)概説 本水系ニ於テ局部的護岸等ノ外治水事業トシテ見ルヘキモノナシ。本流及日影川、綱瀬川ニハ大正八年六月二十四日河川法準用認可セラレタリ。舟筏ノ航行及流材漁業ハ行ハレ用水ハ本流中流部ニハナケレトモ下流部及支流ニアリ水力發電所及許可地點多シ。水車ノ利用ハ殆トナシ

舟運後流ニ便ニセリ

(三)用水 用水アルハ支流岩戸川、上野川、三ヶ所川及本流最上流部並本流下流部ナレハ水力利用ニ最適スル本流中流部ニハサシタル關係ナシ只灌溉時期多少ノカタメ減水スルコトアルヘキモ謂フニ足ラス

本流上流部 小用水五、六アレト灌溉反別合計一〇〇町歩ニ達セス

三ヶ所川 三ヶ所村字坂本ニ取入レ一四〇町歩ヲ灌溉スルモノアリ。尙本川ヨリ取入レ宮野原高畑附近三五〇町歩ヲ灌溉スル計畫アリシコトアリ

上野川及其小支流 小用水多ク其ノ數一〇ナレト灌溉反別一五〇町歩ニ達セス。灌溉期ニハ河水減少ス

岩戸川及其小支流 用水多ク主要ナルモノ七灌溉反別合計二三〇町歩許最大ノモノハ七〇町歩ヲ灌溉スレト近時一二〇町歩ニ擴張ノ豫定ナリ

日影川 現在ハ用水ナケレトモ目下工事中ノモノニ岩戸村大字山裏字葛根ヶ原ヨリ四〇個ヲ取り入レ七折村内約一七〇町歩ヲ開田セントスルモノアリ此ノ取入口ヨリ本流合流點迄勾配急ナレト之カタメ流量減少シ水力ニ利用スヘカラス

最大	平均	低水	最小	最大	平均	低水	最小
1,000	6	5	3	3	3	3	3

(二)舟筏及流材 舟ノ航行ハ三區トナレリ。其ノ一ハ西臼杵郡七折村高巢野ヨリ同村日影迄ニシテ急湍多ク高瀬舟數隻アルニ過キス其ノ二ハ日影ヨリ綱瀬川合流點迄ニシテ約三〇隻アリ其ノ三ハ之ヨリ下ニシテ二〇〇隻ニ近シ主トシテ板類及木炭ヲ搬出ス

流材ノ行ハルルハ本流西臼杵郡高千穂町大字押方以下ニシテ之ヨリ高巢野迄ハ管流トシ以下ハ後流ナリ。松角材ヲ主トシ日影ヨリ上流ニ於テハ年額一、二〇〇石許ナリ日影以下ニ於テモ凡テ後流ニシテ日影川流域ヨリ木材ノ産出多ク一年間ノ流材凡ソ官一〇〇〇〇石民二六、五〇〇石許ナリ

舊來道路不完全ナリシ時ニ於テハ河川ハ唯一ノ運搬路ナリシモ近來道路開クルニ及ヒ從來舟運等ニ依リシモノモ漸次陸送ニ變化スル傾アリ。然レトモ舟運尙盛ナルヲ以テ現今ト雖縣ヨリ費用ヲ出シ時々瀬ノ整理ヲナシ以テ

(三)漁業 漁業ハ上流部ニ少ク下流部ニ多シ。鮎、鱈、鰻等ヲ主トシ年産額三五〇〇〇圓許ナリ

四、水力地點

(一)概説 五箇瀬川水系ハ本流綱瀬川合流點以下ヲ除キ之ヲ水力ニ利用スヘシ。現在發電所建設セラレタルハ三田井附近ノ小支流押方川、日影川ノ小支流タヶ鶴川及綱瀬川ニシテ何レモ小馬力ノモノナリ。然レトモ最近本流並三ヶ所川ニ於テ利用シ得ヘキ部分殆ト全部ニ亘リ地點許可セラレタルヲ以テ未許可ニシテ利用シ得ヘキハ僅ニ本流上流部此ノ部分モ既ニ許可ニ決定シタレトモ指令未タ發セラレス及日影川ノ一部ヲ殘スニ過キス。本水系ニ於テハ流量比較的豊富ニシテ且河川屈曲多ケレハ比較的短キ水路ニテ相當ノ落差ヲ得ヘク日影以下ニ多少舟筏ノ關係アレト之トテ次第ニ陸運ニ變化スル傾アルヲ以テ利害相反スル水利事業少ク河川附近ニ相當ノ道路開ケタレハ交通比較的便ニシテ水力利用上比較的好位置ニアリ

既設及許可並選定地點左ノ如シ

五箇瀬川水系許可地點一覽表

種別	百馬力—五百馬力		五百馬力—千馬力		千馬力—五千馬力		五千馬力—一萬馬力		一萬馬力以上		合計
	地點數	馬力數	地點數	馬力數	地點數	馬力數	地點數	馬力數	地點數	馬力數	
發電開始	一	一四六	—	—	—	—	—	—	—	—	七
未開始	五	二二	—	—	—	—	—	—	—	—	九
合計	六	一五五	—	—	—	—	—	—	—	—	一六

五箇瀬川水系選定地點一覽表

種別	地 點 數		馬 力		低 力		平 數		水	
	以千馬力以上	以千馬力以下	合計	元調查局	以千馬力以上	以千馬力以下	合計	元調查局	以千馬力以上	以千馬力以下
調查期間中許可シモノ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調查期間中許可ナラサリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

五箇瀬川水系選定水力地點表

順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面流域	能發電	年平均馬力數	等級
一四六	五箇瀬川	—	熊本縣阿蘇郡馬見原村	同郡馬見原村	湍水 八五 低水 一〇二 平水 一二二	四一〇	三、八六八 四、六四二 五、五〇七	二七〇〇	五七七	一〇〇〇 六六〇 九二二	三、六六六 四、五九七 五、〇九二	甲

一四七	同	二	熊本縣阿蘇郡菅生村	同郡柏村渡歸ノ瀬	湍水 二〇一 低水 二四〇 平水 二八四	一四〇	三、七三〇 四、四一三	二六〇〇	二四二	九六〇 九二一 九二一	三、六五五 四、〇六四 四、〇六四	甲
一四八	同	三	宮崎縣四白杵郡米原	同郡田原村牧平	湍水 三二八 低水 三九一 平水 四六四	七〇	二、五四九 三、〇三八 三、六〇五	一、五〇〇	二〇三五	九二一 九六〇 九二一	二、五九七 三、〇〇六 三、〇〇六	甲
一四九	同	四	宮崎縣四白杵郡牧平	同郡上野辰石原	湍水 三七四 低水 四四五 平水 五二九	一七〇	七、〇五七 八、三九七 九、九八二	一、〇〇〇	三三〇六	一〇〇〇 九六〇 九二一	一、〇〇七 一、〇〇七 一、〇〇七	甲
一五〇	同	五	宮崎縣四白杵郡辰石原	同郡高千穂村	湍水 四一九 低水 四九九 平水 五九二	五〇	二、七六九 三、二八六 三、二八六	九〇〇	三五六	九六〇 九二一 九二一	二、七四四 三、〇〇六 三、〇〇六	甲
一五一	同	六	宮崎縣四白杵郡小原	同郡岩井川尾村	湍水 四六二 低水 六〇六 平水 八二六	一〇〇	五、二二八 六、七二七 九、一六九	二、六七〇	三六七	一〇〇〇 九六〇 九二一	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	甲
一五二	同	七	宮崎縣四白杵郡岩井川中村日影	同郡岩井川龍谷	湍水 五一一 低水 六四〇 平水 九〇七	七〇	三、九七〇 四、九七三 七、〇四七	二、五〇〇	四〇五	一〇〇〇 九六〇 九二一	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	乙
一五三	日影川	番外	宮崎縣四白杵郡見立	同郡岩井川中村	湍水 一六 低水 二〇 平水 二八	三六五	六四八 八一〇 一、一三四	一、九〇〇	二五二	一〇〇〇 九七四 九二四	一〇〇〇 九七四 九二四	乙

(二) 水力地點ノ説明

順位一、一四六

許可ニ決セルモ未ダ指令發セラレサル

モノナリ。本流馬見原町ノ下流竿渡瀧ノ上ヨリ取入レ三ヶ所川合流點ニ放水セントスルモノナリ

順位一、一四七—一、一五二 調査期間内東邦電力株式會社ニ許可トナレリ

順位一、一五三 見立鑛山ノ下ヨリ取入レ中村ナル支流合流點ニ放水セントスルモノナリ水路ハ左岸ニトリ全部隧道トスヘシ岩盤硬ケレハ掘鑿困難ナルヘシ對岸ニ車馬ヲ通スル道路アリ又日影迄林道アリ川野詰對岸ノ溪流ハ相等ノ水量アレハ取入ルルヲ利トスヘシ

備考 日影川前記地點以下ハ勾配急ナレト葛根ヶ原ヨリ用水四〇個ヲ取入ルルヲ以テ利用シ難シ

第十四章 伊鈴川水系

一、流域

(一) 地形 伊鈴川ノ流域ハ宮崎縣東臼杵郡ノ中部ニ位シ其ノ形三角形ニ近ク東西七里南北三里ニ亘リ面積一四方里アリ

本流域ハ日向山脈ノ縱走スル所ニ當リ山岳連亘スレトサマテ險峻ナラス。流域ノ西北隅ニ九左衛門峠アリ高サ

三、六〇〇尺許流域内ノ最高峰タリ之ヨリ東方ニ山嶽連亘シ連嶺ヲナシ海岸ニ達シ五箇瀨川水系トノ流域ヲ分テリ而シテ西部ニハ石峠、連日峰等アリ高サ三、〇〇〇尺ニ近ク急峻ナレト東部ニ至レハ次第ニ低夷トナリ其ノ主峰烏帽子岳ノ如キハ一、〇〇〇尺餘ニスキス

九左衛門峠ヨリ東南ニモ山岳連リ耳川水系トノ流域ヲ分テリ而シテ粕野峠以西ニ於テハ連嶺ヲナシ高サ二、〇〇〇尺乃至三、〇〇〇尺ノモノ多ク稍分立ノ傾アリ。流域ノ中部ニ駒瀨山ニクシ山アリ高サ二、〇〇〇尺許急峻ニシテ北方ノ烏帽子岳ト共ニ南北ニ連リ流域ヲ二分セリ此ノ上流ニハ急峻ナル山岳ニ圍マレタル宇納間ノ盆地アリ平地極メテ狭小ナレト火山噴出物ヨリ成レル丘陵起伏シ地形錯雜シ其ノ勢粕野峠ノ東ヨリ耳川流域田代ノ盆地ニ連レリ。駒瀨山等ノ以東ニ於テハ兩岸ノ山勢比較的急峻ナラス其ノ間ニ在リテ河ノ沿岸ニ帶ノ如キ平地存ス

(二) 地質 本流域ハ大部分砂岩、粘板岩等ヨリ成レリ而シテ流域ノ西部ナルモノハ古生層ニ屬シ中部以東ハ中生層ニ屬ス是等ノ中ニアリテ黒木、宇納間附近ノ丘陵起伏スル所ハ熔岩其ノ他ノ火山噴出物ヨリ成リ河口ノ平地ハ沖積層ヨリ成ル